

# animal donation magazine



アニマル・ドネーション活動報告 <第7期> 2016年6月～2017年5月

キモチをカタチに

寄付先ってどんなところ？  
アニドネ認定団体の  
活動や想いをレポート

保護犬・保護猫もHAPPYに♪  
利用するだけで  
寄付につながるサービス



里親さんにインタビュー。  
保護犬・猫を  
家族に迎えるということとは？

# Introduction

公益社団法人

# アニマル・ドネーションが認定している団体とは？

アニマル・ドネーション(以下、アニドネ)に寄付していただく時、特定の寄付先を選ばず「まとめて寄付」を選んだ場合、頑張っている全認定団体に等分して寄付が届けられます。では一体、どんな団体が寄付先に認定されているのでしょうか？アニドネが認定団体を決める際は、必ず直接お会いして活動内容や方針について伺っています。各団体の目的は一緒でも、規模やスタイルなどが全く異なるからです。今回は、現在17ある団体の中から5団体をご紹介します。

## 保護団体

### 人と動物の未来センター アミティエ

2013年に福島県のシェルターで保護された被災犬と猫10頭の受け入れから動物保護活動をスタートした「アミティエ」。鳥取県の行政機関や医療機関との連携を図り、丁寧な保護&譲渡活動を行うだけでなく、動物愛護の普及啓発活動にも力を注いでいます。



①⑥保護犬は広い芝生のドッグランで、1日数回遊びながら訓練を受けています。一般の方にも開放されており、里親希望の方も犬と触れ合うことができます ②施設は365日オープン ③猫舎にはキャットタワーなどが充実 ④⑤犬舎は外に出られるようになっていて、お天気がいい日は日光浴も

#### 特徴 1 施設の広さ

緑に囲まれた約1万6000㎡の敷地  
広々した芝生のドッグランも完備

アミティエは、鳥取県倉吉市の商業地や住宅地から離れた、畑が広がる自然豊かなエリアにあります。アミティエの母体である公益財団法人動物臨床医学研究所が野生動物の保護を行っていた「野生動物センター」を拡充した施設は、敷地面積1万6000㎡の広さ。建物面積330㎡の施設内には、犬舎、猫舎、処置室や会議室を完備。さらに、犬たちが元気に走り回れる芝生のドッグランもあり、保護犬たちは、1日数回ここで遊びながら訓練を受けています。



#### 特徴 2 丁寧なサポート

医療機関と連携して健康管理  
里親さんへのサポートも丁寧に

鳥取県に動物愛護施設がないため、アミティエでは県の動物愛護センターの機能を受託。保健所で処分される運命にある犬や猫を保護しています。保護犬・保護猫の健康管理については倉吉動物医療センターと連携。病気治療やワクチン接種、避妊・去勢手術、マイクロチップ装着を行っています。里親へ譲渡する際は、2週間のトライアル期間を設け、相性をチェック。ペットの健康管理やしつけ方、飼い主としての責任などを学ぶ講習会も実施しています。



#### 特徴 3 福祉の教育活動

365日施設を開放し見学を受け入れ  
月1回アミティエフェスタを開催

アミティエでは、動物愛護の普及啓発活動にも力を注いでいます。地元の保育園や幼稚園、小学校の子供たちの見学を積極的に受け入れ、動物とのふれあいを通じて豊かな人間性と動物愛護の心を育てています。また、毎月行われる「アミティエフェスタ」では、保護犬や保護猫とのふれあい会や施設見学会、里親希望者への講習会、犬のしつけ教室、わんわん運動会、獣医師による無料相談会などを開催。安心してペットを飼うためのサポートを行っています。



#### 代表より



理事長  
山根 義久さん

「長年、獣医師として、動物臨床医学の向上と後進の指導に力を注いできました。退職後は“動物愛護”一筋でやっていこうとアミティエを開設。県や医療機関とも連携し、人と動物が真に共生できる世の中を目指します」

#### スタッフより



ドッグトレーナー  
山田 美奈さん

「アミティエに来る保護犬、保護猫のほとんどが怖がりの子ですが、時間をかけて接することで少しずつ心を開いてくれます。里親になっていただける方には、焦らずにゆっくりと見守っていただきたいと思っています」

設立:2013年  
活動拠点:鳥取県倉吉市

保護団体

特定非営利活動法人  
日本動物生命尊重の会 — アリス (Animal Life Station)



- ◆ 雑種の中型犬やケアが必要な子を保護
- ◆ 多頭飼い崩壊現場などの保護実績も多数
- ◆ (財)日本動物愛護協会動物愛護賞を受賞

東京や埼玉を中心に保護活動を展開。行政機関からの引き取りはもちろん、多頭飼育崩壊現場や崩壊プリーダーなどからのレスキューを実施。「動物が人のために犠牲になることのない社会づくり」を目指し、行政機関との意見交換会や啓発活動も行う。

活動topics

埼玉県桶川市主催、べに花祭りにて譲渡会を開催

アリスの会の保護犬2頭がワンちゃん応援隊の任命を受け、市長と共に会場を回って愛護啓発を実施。また譲渡会での新たな試みとして、保護犬たちの等身大パネルを設置しました。写真では伝わりにくい中型犬の魅力や個性を伝え、譲渡会が苦手な犬にもチャンスを広げることに成功。当日は多くの卒業犬たちも遊びに来てくれ、幸せな近況報告をいただきました。



代表より



代表  
金木 洋子さん

動物が人のために犠牲にならない社会づくりを目指し活動しています。犬種による格差や偏見をなくすため雑種を積極的に保護。中型犬でもMIX犬でも同じ犬として社会に認められるようにと願いながら譲渡活動を行っています。

スタッフより



スタッフ  
堤 紀子さん

搬送や預かりをしています。10年ほど前、譲渡会に参加した際にスタッフの真摯で丁寧な対応に感銘し、何かお手伝いしたいと思い参加しました。全員で気持ちを一つに、命を繋ぐという活動ができることを嬉しく思います。

設立:1993年 住所:東京都世田谷区

保護団体

アニマル・ハート・レスキュー



- ◆ 獣医師など有資格者がサポート
- ◆ 保護犬・猫は月間約20頭が里親決定
- ◆ レスキュー犬から災害救助犬に合格

1997年から横浜を中心に猫のTNR活動をスタート。1999年より徹底した飼育指導のもと里親会を行う。現在は動物病院の経営をしながらベットの老齢期のサポート・在宅介護ケアに力を入れて、飼育放棄をなくす活動を行っている。

活動topics

里親会やフリーマーケットを行いながら譲渡活動を実施

ドッグライフカウンセラーでもある代表が、里親希望者の家族構成やライフスタイルを確認しながら保護犬とのマッチングを行う。預かり中のしつけや譲渡後の細かいケアも喜ばれ、併設する「センター南動物病院 アニマルセラピーハウス」に譲渡犬が顔を出すこともしばしば。猫の譲渡数も多く、必ず兄弟で譲渡する里親探しを徹底しています。



代表より



代表  
山本 りつこさん

保護活動を始めてまもなく20年。現在では、動物を家族とする認識も高まりました。もっと多くの方に里親になるという選択肢を知って頂き、保護犬・猫を家族に迎えることが普通となる日が来るよう頑張りたいと思います。

スタッフより



スタッフ  
徳永 由紀子さん

新しい里親さんを探す時は、犬や猫と家族とが双方ベストマッチになるように里親会ではたくさんお話しさせて頂きます。その為にも犬や猫の性格や生活習慣など、良い所も悪い所も把握し、心の内なるべくたくさん引き出せるように頑張っています。

設立:1996年 住所:神奈川県横浜市

保護団体

特定非営利活動法人 DOG DUCA (ドッグデュッカ)



- ◆ ドッグトレーナーが主体の保護活動
- ◆ わんわん保育園とトリミング施設も運営
- ◆ 2001年から名古屋を中心に活動

名古屋市内を中心に、飼育放棄や多頭飼育崩壊からのレスキュー、愛護センターからの引き取りを実施。ドッグトレーナーが運営する保護施設として、問題行動のある犬も、施設内のわんわん保育園にて手厚くケア。また飼い主への専門的なアドバイスも行っている。

活動topics

地域への啓発活動も積極的に開催

「不幸な犬を減らす」保護活動はもちろん、「捨てない飼い主を増やす」ことも大切だと捉え、地域に向けての啓発活動も積極的に行っています。最近では小中学校で生徒さんや保護者の方向けに講演会を行い、命の大切さをお伝えするとともに、犬を飼うことの責任や必要な知識についてお伝えさせていただきました。



代表より



代表  
高橋 忍さん

飼育拒否で来る子の中には「手離されて逆に良かった」と思うことも。叩かれていた、サークルに閉じ込められたまま...など、愛・思いやりが失われつつあるのかと感じることも多くあります。活動を通して、人としての大切な事も伝えたいです。

担当獣医師より



もりやま犬と猫の病院  
院長  
浅井 亮太さん

DOG DUCAの高橋さんには当院の患者様のパピー期のしつけやアドバイス、問題行動に対する指導をお願いしており、飼い主の方々から高い評価を頂いております。多くの保護犬たちが幸せに暮らせるよう、健康診断や治療のお手伝いをさせていただきます。

設立:2001年 住所:愛知県名古屋

啓発団体

公益社団法人 日本動物病院協会 JAHA



photo by 石垣星児

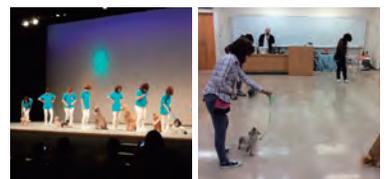
- ◆ 1978年設立の動物病院の協会
- ◆ 動物医療充実のための教育や資格を付与
- ◆ 日本でのアニマルセラピー活動の先駆者

活動の理念は「人と動物の共生社会の実現」。人と動物の絆(HAB:ヒューマン・アニマル・ボンド)を尊重。みんなが健康で幸せに生きていくことが社会全体の幸福に繋がると信じ、獣医師や看護師、アニマルセラピー等のプロ集団が活動している。

活動topics

CAPP活動を中心にしつけ講座、各種セミナーなどを開催

「人と動物のふれあい活動(CAPP活動)」は、飼い主とペットが高齢者施設、病院、学校などを訪問し、動物の温もりや優しさに触れてもらうというボランティア活動です。2016年に30周年を迎え、全国に150施設以上の拠点を展開。訪問実績は1万9000回を超えるほどです。動物と触れ合うことで、普段得ることが難しいとびさりのパワーや笑顔が生まれています。



代表より



会長  
木俣 新さん

40年前に全国の獣医師が集まり結成されて以来、CAPP活動や動物のしつけインストラクターの認定などを行っております。今後も人と動物が幸せに、そして人が動物と暮らすことが喜びと感じられるような事業を展開して参ります。

スタッフより



理事  
吉田 尚子さん

愛らしい動物との絆を深めながら、訪問側と対象の方々の双方が、笑顔いっぱいになれるこの活動を支えて頂き感謝申し上げます。子供達の豊かな将来のため、また病気や孤独を克服する特別な支えとなるようこれからも力をあわせて参ります。

設立:1978年 住所:東京都中央区

# 保護犬・猫の里親になる。 家族に迎えるということとは？

## DOG



### Profile

名前:田邊るっちゃん  
(パピヨン)  
年齢:推定4~5歳  
経歴:フリーダー崩壊(=フリーダーが犬を管理できずに破綻すること)により、2016年11月保護団体DogShelterがレスキュー。翌2017年1月、田邊家に迎えられる。

今回はDogShelterから「るっちゃん」を家族に迎えた田邊家のお母様にお話を伺いました。

### 1 そもそも保護犬という存在を知っていましたか？

私の兄弟が海外にいて、海外では保護犬の里親になるという文化が浸透しているのを知っていました。ペットショップから迎えることも少し考えましたが、販売されている犬の金額の高さ、生き物なのにセールをしているということにも違和感がありました。以前犬を飼っていて、次に飼うときは殺処分になる子を減らせたらと思っていたので里親募集をしているサイトで探していました。

### 2 るっちゃんを家族に迎えるまでの経緯を教えてください。

DogShelterさんのブログで紹介されている、闘病しているワンちゃんたちを娘と応援していました。そこにパピちゃん(るっちゃんの保護時の名前)も掲載されていて、一目見て娘が気に入り、パピちゃんが参加する譲渡会に娘と主人で参加しました。

昨年11月に愛犬が病気で他界してしまい、私としては飼いたいと思いつつまだかなと思っていました。ですが、その譲渡会でパピちゃんに申し込んできたと言うので驚きました。(笑)

すでに申込者がいらっしまったので、主人に『あまり期待しないように』と言われながらも、本当は心の中でウキウキしていました。その後、ご縁があって我が家でトライアルをすることが決まりました。

### 3 るっちゃんの譲渡会での様子や印象はどうでしたか？

毛が今のようにふわふわに生えていなくて、バサバサしていました。しっぽの毛もなく痩せていて、覇気がない、元気がない感じでした。

### 4 実際に家族に迎えてみて、驚いたことや苦労したことは？

はじめはカーテンが風で揺れるのにも怯えていて、『そうか、こういう体験もしたことがないんだ』と思いました。ちょっとした段差も苦手で、トイレのトレーをまたげないので、トイレシートのみを置いています。

あとは怖がっているのか、玄関へ続く廊下へは一切行かないですね。まだリビングが落ち着きみたいです。

### 5 るっちゃん自身の変化や、家族にとって嬉しかったことは何ですか？

ここ1か月に抱っこができるようになりました。自分でソファには乗りませんが、ソファに座る私たちの足にちょこんと前足をのせてきてくれるようになり、そのままソファに乗せてあげることも。途中で止まってできなかった散歩も少しずつできるようになりましたね。ドッグランに行っても、自分より大きな体の犬の匂いも嗅ぎに行くし、人に対してもそこまでは怯えなくなりました。

あとは家族の生活リズムも変わったと思います。そろそろ、るっちゃんのご飯の時間だとか、散歩の時間だとか。だれかが散歩に行けるようにと、るっちゃんが生活の中心になりました。

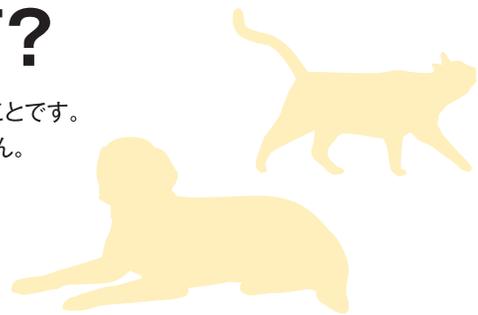


### 6 最後に…。今後、保護犬を迎えようとしている方へメッセージをお願いします。

保護犬を迎えようとお考えになった時点で、救いたい想いがあるかと思いません。でも救われるのは我々、人間の方です。注いだ愛情は何倍にもなって返ってきて、このうえない癒しを与えてくれます。

## まずは言葉から知ろう!動物福祉って何？

「動物福祉」とは、一言でいうならば「動物が精神的・肉体的に充分健康で、幸福であり、環境とも調和していること」ということです。人間の飼育下にいる動物たちは、基本的(生理的、環境的、行動的、心理的、社会的)ニーズを自身で満たすことができません。そのため、動物ができる限り快適に、苦痛を受けずに生活できるようにする義務と責任があります。だからこそ動物を飼っている、飼ってみたいと思っているという方には知っておいて欲しい言葉があります。



### 保護犬・猫とは？

飼い主のいない居場所を失った犬・猫のことです。  
野良猫が子猫を産んだり、  
事情があって飼い主さんが動物愛護センターに持ち込んだり、  
繁殖フリーダーが倒産して保護団体が引き取ったり…。  
さまざまな形でレスキューされた動物たちです。

### 殺処分とは？

人間に危害を及ぼすおそれのある動物、または不要となった動物を殺すことです。家畜伝染病の蔓延防止や特定外来生物の防除などのために行われるほか、動物愛護センターに持ち込まれた犬・猫などのペットに対しても行われます。ちなみに、平成28年度は犬・猫合わせて5万5998頭が殺処分されています。

日本では年間11万3799頭(2016年)の犬や猫が保健所・愛護センターに保護されています。そのうち、1万3127頭が飼い主の元に戻り、4万4259頭が保護団体や個人に譲渡され、5万5998頭が殺処分されているという現状があります。最近では犬・猫の保護活動の認知度も上がり、新しく犬や猫を飼う際、「保護犬や保護猫から…」と思う方も増えています。とはいえ、いざ家族として迎えるとなるといろんな心配があるのではないのでしょうか。そんな方の参考になればと、今回、実際に元保護犬・猫の里親になった2家族の方にお話を伺ってみました。

## 1 保護猫という存在を知っていましたか？

もともと猫好きでしたので、ネットでよく猫の写真や情報を見ていました。そんな時に、神奈川県動物愛護協会(以下、KSPCA)さんの活動を知り、いろいろな人に助けをもらいながら里親さんを待っている猫たちがこんなにたくさんいるのだということを知りました。

## 2 ペットショップやブリーダーからではなく、なぜ保護猫を迎えようと思ったのですか？

以前からKSPCAさんの熱心な保護活動に感銘を受け、微力ではありますが、少しだけ支援していました。保護をされている方々は大変な労力がかかる中で、一生懸命に命と向き合っています。日本では、まだ保護に対して認知や理解が浅いところもあるので、ご苦労も多いただろうなと思っていました。猫を迎えようと思った時、すぐにKSPCAさんに行こうと思いました。

## 3 マツちゃんを家族に迎えるまでの経緯を教えてください。

実は、昨年の10月に独身時代から一緒に暮らした黒猫の駿(しゅん)を寿命で亡くしました。2001年生まれの15歳で、実家にいる時から一緒に過ごし、主人と知り合うきっかけにもなった猫でした。現在、中一になる息子は生まれた時から一緒にいましたから、亡くなった時は本当に悲しくて、家族全員が傷心していました。やっぱり猫がいない生活は考えられないってことになり、信頼をおいているKSPCAさんで紹介してもらおうと、息子と一緒に見学に行きました。

## 4 なぜこの子にしようと思いましたか？

KSPCAさんにはたくさんの猫たちがいました。その中でマツが、座っている息子の膝に自分から手を乗せてきてくれたんです。年齢を見たら2001年生まれ・推定15歳だったので、亡くなった駿と重なりました。色は違いますが顔立ちも雰囲気も駿に似ていたのが印象的でした。最終的には息子が「この子がいい」と言ったのですが、私たちがマツを選んだというよりは、マツが私たちを選んでくれたという感じです。

## 5 実際に迎えてみて、苦労したことは？年齢や持病は気になりましたか？

推定15歳で持病もあり、今も定期的な通院と3日に1度の点滴が必要です。点滴は自宅で皮下注射を行います。すぐにできるようになりました。たしかに、若くて健康な猫ちゃんはたくさんいましたが、そういう子はすぐに里親さんが見つかると思い、我が家はマツを迎えることに迷いはありませんでした。老猫を迎えるにあたり、あまり深く考えることもありませんでしたので、苦労は感じていません。

## 6 マツちゃんを迎えて、嬉しかったことはなんですか？

とにかく、先住猫を亡くした悲しみが大きかったので、家族全員マツに救われました。一番嬉しいのは、歯がないことも気にせず、ご飯をたくさん食べてくれることです。先住猫は最後にご飯が食べられなくなったので、食べている姿を見るだけで嬉しくなります。夜9時頃になると「まだ寝ないの？」と迎えにきて、私の腕枕で一緒に寝てくれますし、おしゃべりで話しかけるようによく鳴きます。主人は声が大きいので、マツは少し怖いみたいで、主人がマツを抱っこして持ち上げると、しっぽが縮まってしまい、そんな様子を見て家族みんなで笑っています。



## 7 最後に…。今後、保護猫を迎えようとしていらっしゃる方へメッセージをお願いします。

保護されている猫ちゃん達は、過去にいろいろあったとしても、動物愛に溢れる環境で育てられれば気持ちに変化が出ます。保護猫を迎えるために越えなければならないハードルは、思っている以上に低いと思いますので、1歩勇気を出して頂きたいと思います。

### Profile

名前:三島マツちゃん(MIX)  
年齢:推定15歳  
経歴:TNR活動のなか2004年6月に保護。去勢手術後に元の場所に戻すはずだったが、大けがを負っていたため去勢手術と同時に負傷治療を開始。2016年12月に15歳で三島家に迎えられる。



今回は、神奈川県動物愛護協会から「マツちゃん」を家族に迎えた三島家のお母様にお話を伺いました。

# CAT

## 5つの自由とは？

国際的に認められている動物の福祉基準が5つの自由(5 Freedom)です。

1. 飢えと渇きからの自由
2. 不快からの自由
3. 痛み・傷害・病気からの自由
4. 恐怖や抑圧からの自由
5. 正常な行動を表現する自由

制定当時は家畜の福祉を確保するためでしたが、現在ではペット動物・実験動物などあらゆる人間の飼育下にある動物福祉の基本として先進国で認められています。

## 地域猫とは？

特定の飼い主ではなく、その地域に住む人々が共同で飼育と管理をしている猫たち。

餌やり、ふんの清掃、繁殖防止のための避妊手術など、猫に関する住民同士のトラブル解消などの活動を行います。

## 動物の愛護及び管理に関する法律とは？

通称、動物愛護法とも呼ばれ、動物の虐待の防止、動物の適切な取り扱いなどについて定めた日本の法律です。動物の生命を尊重し愛護すること、動物による人の生命・身体・財産への侵害を防止することを目的とします。昭和48年(1973年)に制定。動物への虐待や遺棄は犯罪とされ、みだりに殺傷した者は2年以下の懲役または200万円以下の罰金に処せられます。

## TNR活動とは？

地域猫を『T』Trap(トラップ): 捕獲し、『N』Neuter(ニューター): 避妊手術を行い、『R』Return(リターン): 元の場所に戻す活動のことです。また、その後も放置するのではなく、ご飯をあげたり、健康管理も継続して見守っていきます。

# 企業とのコラボ寄付活動

コラボ  
寄付

商品（もしくはサービス等）を購入すると、その売り上げの一部がアニドネを通じて、支援先団体へ寄付される『コラボレーション寄付』企画。今回、その中の2つのサービスについてご紹介します。

写真1枚＝  
10円寄付



どこで撮った写真でもOK!  
トリミング後のワンちゃんを、  
10分で素敵な1枚に加工



千葉県船橋市でトリミングサロンやペットホテルを展開しているエニーケイズが開発・展開している写真加工サービスは、お客様が喜ぶことはもちろん、サロン店にも嬉しいサービスです。

### ♡お客様のHAPPY

トリミング仕立てのバッチリ決まったスタイルの写真がもらえる♪  
背景デザインが毎回変わり、いろんなバリエーション写真がもらえる♪

### ♡サロン店のHAPPY

撮影時間やセット費用がかららずにトリミングに集中できる♪  
加工時間はわずか10分。トリミング後、お客様が帰るときに渡せる♪

### ♡保護動物のHAPPY

写真1枚＝10円がアニドネに寄付される♪



トリミングテーブルで撮影した写真が、こんなに素敵に変身!

### 写真加工例

季節に合わせたデザインのほか、サロン店のロゴ入れもOK



### 【エニーケイズ経営者・柴田夫妻の想い】

社会貢献には以前から興味を持っていて、無理することなく長く続けられる形を探していたところ、このような写真サービスを開発して展開することがベストだと思いました。私たち自身もトリミングサロンを経営しているので、「毎日行っていることが寄付に繋がる」という、とてもスムーズな形で貢献できるかと思えます。

※寄付つき写真加工サービスに興味を持たれた方は、アニマルドネーションまでお問い合わせを。エニーケイズ様をご紹介します。

ひと箱で  
500円寄付



あなたのもう着ないモノを送るだけ!  
“りぼんBOX”で  
人と動物が幸せに暮らすお手伝い

●宅配買取 ブランディアが提供するサービス“りぼんBOX”。サイズが合わなくなった洋服、使わなくなったカバンなど、あなたの今まで大事にしていたものが、他の誰かの大事なものになるサービスです。

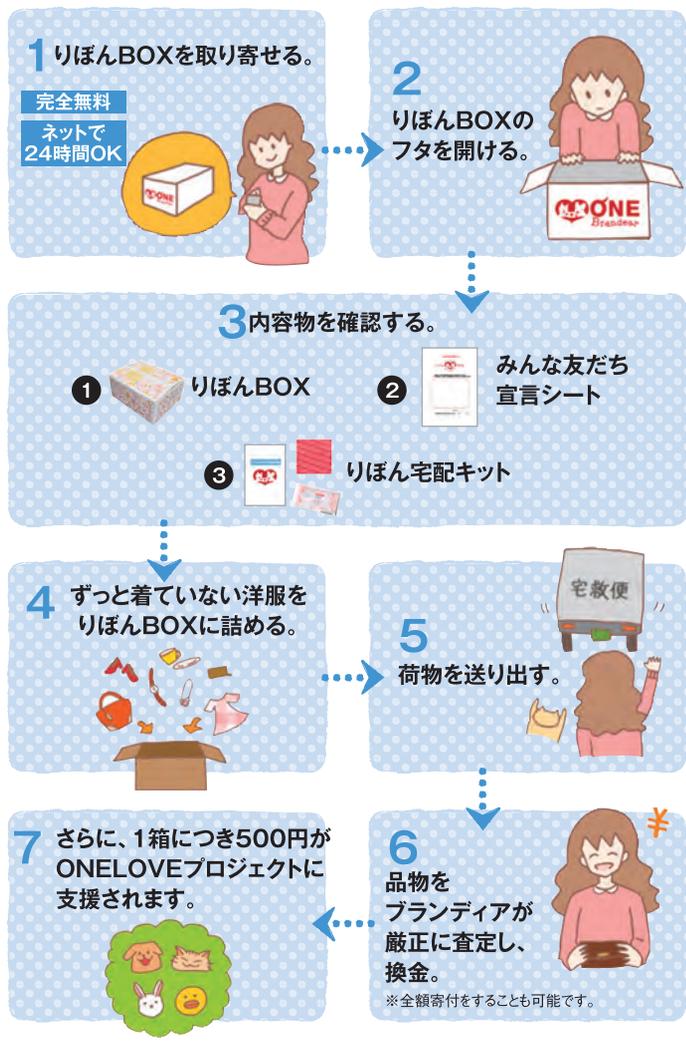
●クローゼットの整理ができることに加え、1箱送るたびに500円が「人と動物が幸せに暮らすための社会の実現に向けた」ONELOVEプロジェクトに支援されます(金額はブランディアが負担)。

●もちろん、箱の中身はブランディアが厳正に査定し、その買い取り金額をすべてお支払い。その際、ONELOVEプロジェクトを通して、1箱につき500円がアニドネに寄付されます。



※箱の内容物は変更される可能性があります。

### りぼんBOXの使い方





アニマル・ドネーション  
代表理事：西平 衣里

## アニドネ活動レポート<第7期>

リサーチ事業・セミナー事業の認定を  
内閣府より受け、活動領域を拡大した一年でした

私共は、“寄付したい個人様や企業様”と“現場で頑張る団体”を寄付というカタチで結び中間支援組織です。中間支援組織だからこそ、ご支援している団体様のリアルな活動内容、寄付したい方々の想いや寄付による願いなど、ありがたいことにさまざまな情報が集まります。

昨今、動物関連セミナーの講演依頼が増えています。日本の動物福祉に関して知りたい、このような調査ができないか、などの依頼です。そして2016年10月に内閣府に、新しい事業の認定を正式にいただきました。「海外の先進事例紹介」「国別のデータ比較」「日本の現状と課題」などをテーマにした講演は大変好評をいただいております。私自身、ご寄付を届けるだけでなく情報によ

り動物福祉の底上げに貢献できることに喜びを感じています。まずは知ること、そして進むべき道・策を考える仲間を増やすことを今後も行ってまいります。

また、2017年夏に「動物のたちへの想いを遺産に託すレガシーギフトサイト」をローンチいたしました。こちらは日本ではまだ馴染みのない、動物たちのために遺産や相続を寄付として届ける試みです。遺贈という文化を作ることから始めるため、時間がかかることは覚悟しています。ですがアニドネ立ち上げから7年、ずいぶん状況は好転しております。私達のミッションである「日本の動物福祉を世界トップレベルに」を達成するために、今後も活動を続けていく所存です。

## 動物福祉向上のためイベントに参加

### 日比谷公園内で開催の「神田雑学大学」にて登壇

雑学パワーで日本を元気にしたい!という思いのもと開催されている神田雑学大学にて、「日本の動物福祉の問題と動物との共生社会に向けて」というテーマで、アニドネ代表の西平が講演。広く社会問題に興味がある方も数多く参加されていたので、日本におけるペットの飼育頭数などの基本情報から、飼えなくなった理由&殺処分の方法、海外の動物先進国との比較など。元保護犬で今は新しい家族と幸せな生活を送っている犬や猫もビジュアルで紹介されました。



### 「療法食 ブルーバッファロー新発売セレモニー」にて登壇

アメリカのペットフード市場を牽引しているブルーバッファローの療法食(健康維持、疾患を治療するためのフード)が日本全業工業株式会社を通じて日本で販売することに。そのセレモニーの中のパネルディスカッション「最新ペットフード情勢と今後求められる先進医療とペットフードの関係」にて、アニドネ代表の西平から「保護活動におけるペットフードの重要性」についてお話しさせていただきました。事前に保護団体の方に協力いただいたアンケート結果も共有させていただきました。



## メディア向け勉強会を実施

### TV、新聞、雑誌、WEBなど、メディア向け勉強会を実施

2016年8月26日(金)・27日(土)に東京大学で初開催された「ANIMAL WELFARE SUMMIT(アニマル・ウェルフェア・サミット)2016」。その中で、TV、新聞、ラジオ、雑誌、WEBなど、メディアに携わる方々に「動物福祉」や「動物倫理観」の“本質”を知ってもらうための勉強会を実施。ドイツで獣医師、スウェーデンでドッグジャーナリストとして活躍する講師を招き、「日本の現状」「アニマル・ウェルフェア」「擬人化というフィルター」の功罪」などをお話いたしました。



Photo by ケニア・ドイ

### ペット系WEBメディア向けの少人数勉強会を実施

「アニマル・ウェルフェア・サミット」でメディア向けに配付した資料を使って、「動物福祉」の勉強会を開催。改めてアニドネの活動内容についてお伝えするとともに、以下の5つの項目を駆け足ですが共有させていただきました。1. 海外の先進事例紹介 2. 国別データ比較 3. フランス人とペット 4. コンテンツが与える影響力・海外比較から見るペットの表現の違い 5. 動物福祉を考えるための本と映画。プレストでは活発な議論が交わされ、さっそくWEBマガジンなどでも掲載いただきました。



## 第7期 収支表

(2016年6月1日~2017年5月31日まで)

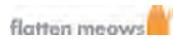
(単位：万円)

収入		1,947
	受取寄付金	1,868
	その他収入	79
支出		1,662
	支払寄付金	1,071
	その他支出	591
財産増減額		
期首残高		315
当期増減額		285
期末残高		600

※受取寄付金には指定正味財産の増額も加算しています。

## 第7期 寄付総額 1,868万円

●法人寄付 (235件) ●個人寄付 (525件)



◆社名一覧(50音順)◆ INU MAGAZINE / ウールージュシュ 羊毛フェルト教室 ケイファースト株式会社 / HR ビジネスパートナー株式会社 / 株式会社オルタスジャパン / only wan / 株式会社カラース / 特定非営利活動法人 寄付型自動販売機普及協会 / gooddo 株式会社 / 株式会社サイバーエージェント / 株式会社サンテ / ソフトバンク(株) 寄付プラットフォーム「かがして募金」 / 株式会社 地方創生 / T's Doggie Private Room / 株式会社鉄人社 / TOKYO ZERO キャッチャー / 日本全業工業株式会社 / ハースト婦人画報社 25ansRichesse 編集部 / 株式会社ファインズコーポレーション / 株式会社 FORPETS (白金高輪動物病院・中央アニマルクリニック) / flatten meows / フロントライン セーブペットプロジェクト / ペッツデポタウン / ペットフォトスタジオ わんこ\*がらネット / ベーリンガー・インゲルハイム アニマルヘルス ジャパン株式会社 / 医療法人星が丘瀬川皮膚科クリニック / マーケティングパートナー株式会社 / マース ジャパン リミテッド / 有限会社ミュウ・インターナショナル わんごと / utility / RAKUGAKI JAPAN / LOVE FOR DOGS / 株式会社リフレックス / 株式会社 ONE BRAND  
※上記にご紹介させていただいた企業・団体様以外に、全国に設置の募金箱へご寄付をいただいております。

ご支援ありがとうございます。  
みなさまのご期待に応えられるよう、  
今後も活動してまいります。



あなたのアクションで、救える命がある<セーブペットプロジェクト>

# 動物医療に携わる企業が取り組む、今年で8年目の寄付活動。その想いとは？

「セーブペットプロジェクト」とは、動物病院で処方されるフロントライン®シリーズやネクスガード®シリーズ、フィラリア症予防薬、犬・猫用オールインワン寄生虫ケア薬、そして犬用デンタルガム・オーラベットの売上げの一部を新しい家族を探す保護犬や保護猫たちのために役立てる活動です。寄付金は、アニマル・ドネーションを経由して、保護活動を行う支援先の団体へ届けられています。

今年で8年目。寄付総額は、4,641万4,892円、医療サポートを受けた保護犬や保護猫の頭数は5457頭になりました。

寄付をご提供いただいているペーリンガーインゲルハイム アニマルヘルス ジャパン株式会社 代表取締役社長の永田正氏と日本全薬工業株式会社 執行役員の渡辺悟氏にお話を伺いました。



ペーリンガーインゲルハイム  
アニマルヘルス  
ジャパン株式会社  
代表取締役社長  
永田正氏

## 「きっかけは動物への愛情でした」

このプロジェクトは、動物福祉に関して非常に高い関心と熱意を持っている社員のアイデアで始まりました。動物医療にかかわる企業として、日本の現状を見過ごすわけにはいかない、なにか役に立てるのではないかと、ということで日本全薬工業様にも賛同をいただき開始した活動が5457頭もの犬や猫たちの医療サポートという形で、長く続けられていることを大変うれしく思っています。今後は日本の動物福祉向上のための体系や仕組み作り等の第2段階へ向かっていきたいですね。



本年度の贈呈式の様子。  
アニドネがしっかりと寄付をお届けします

## 「企業としてご寄付を続けてくださっていることに、心から御礼を申し上げます」

セーブペットプロジェクトの事務局として、保護団体さんとのコミュニケーションを担当しています。ある時、団体の代表から「以前は動物を保護する時には『医療ケアに幾らかかるのか?』『団体にお金があるのか?』と心配だったが、医療費の寄付が始まってからは心配をせずにレスキューできるようになった」と言われたことがありました。今後も事務局としてお役に立ちたいと思っています。



アニマル・ドネーション  
セーブペットプロジェクト担当  
松原 賢



日本全薬工業株式会社  
執行役員  
渡辺悟氏

## 「私自身、保護猫を迎えました」

動物薬専門企業としてのトライでした。寄付以外にも、イベントや啓発ウォーキングなど、形を変えながら動物たちを救う活動をしてきました。開始したときは今よりずっと殺処分の数も多かったのですが、近年はぐっと減り活動の成果を感じます。私共の寄付は微々たるものかもしれませんが、現場で実際の活動をされる方の支えになれば幸いです。今後は、犬よりも猫の問題が大きいですよね。実は、私の家族の一員である愛猫は、約1歳で我が家に迎えた元保護猫です。今ではかわいくて仕方ない存在ですね。

©登録商標

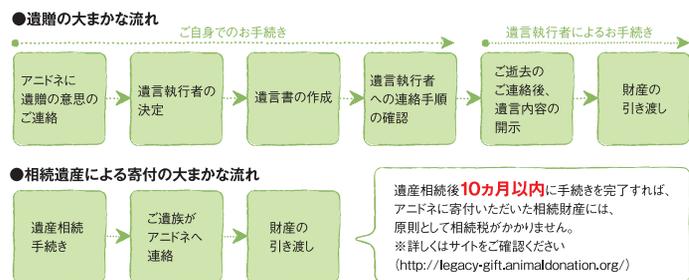
## 「遺産」を動物福祉のために寄付できる「レガシーギフトサイト」を2017年8月に開設

自分の遺産や遺産を相続した遺族が、動物福祉に役立てることを目的に遺産を寄付することができるWebサイト「レガシーギフトサイト」を開設しました。

遺言にもとづき「遺産」を特定の個人や団体に寄付する「遺贈」は、海外では著名人をはじめよく行われていますが、日本では増えつつある一面はあるもののまだまだ一般的ではありません。一方で、「社会に役立てるために遺産(の一部)を寄付(≒遺贈)したい」と考える人は4人に1人の割合で存在するという調査結果もあります。

また、ペットを家族の一員ととらえる層がより増加していることや、加熱するペット産業の裏で行われる過度な営利目的の繁殖ビジネスや殺処分の実状などを社会問題としてとらえ高い関心を持つ層も増加しております。

そこでアニドネでは「レガシーギフトサイト」にて、動物福祉のために遺産を役立てたいと考える人々からの寄付の受付を始めました。寄付された遺産は、これまでの活動で培った信頼できるネットワークにて活用してまいります。



## アニドネ Information

アニドネのプロモーション動画「キモチはつながる」



この動画は、動物への想いを持った方々がボランティアとして作り上げてくれたものです。『キモチはつながる～保護犬と保護猫と生きる人～』ここに登場する犬・猫は、すべて保護犬・保護猫です。新しい飼い主と出会い、新しい毎日を過ごしています。「出会わなければ、失われていたかもしれない命」。ひとりでも多くの方がこの動画を見ることで、保護犬・保護猫という存在を知り、今の温かい暮らしを想像いただければと思います。ぜひご覧ください。



「キモチをカタチに」アニドネ募金箱設置のお願い

募金箱を設置していただく、カフェ、トリミングサロン、ドッグラン、ショップを大募集しております。動物のために活動する団体への寄付やアニドネの運営費として、大切に使用させていただきます。たくさんの方で、この募金箱を見た方が動物への優しいキモチをカタチにしてくれると、とても嬉しいです。設置をしてくださる方は、アニドネにご連絡ください。

E-mail : [info@animaldonation.org](mailto:info@animaldonation.org)  
メールタイトル: アニドネ募金箱設置希望  
●お名前 ●連絡先メールアドレス ●電話  
●募金箱送付先(郵便番号、住所、電話、募金箱設置場所のサイトがあれば URL)

## magazine STAFF



EDITOR アニドネ 山本和子



DESIGNER 赤星淳一

animal donation magazine vol.2  
発行: 公益社団法人アニマル・ドネーション  
住所: 東京都港区南青山2丁目15-5 FARO1F  
代表: 西平衣里  
URL: <http://www.animaldonation.org/>